

## 附録：「もし輸入がとまったら？ ～世界とのつながりから「食」を考えよう～」

(小学校高学年教材)

白松 賢 (愛媛大学教育学部)

### 1. ねらい

このパワーポイント教材は、小学校5年生の社会科と関連して、食べ物という「モノ」を入り口として、「ヒト（世界の人々とのつながり）」「コト（世界の貧困率）」を学ぶ教材となっている。食育としての主たるねらいは、「食への感謝」である。

### 2. 題材について

日本の給食は、近年、世界からも高く評価されてきているが、学校現場や家庭からは、そのすばらしさが十分理解されていないこともあるのではないだろうか？食育として、子どもたちの食習慣や食生活にはまだまだ問題があるものの、そこをいったん括弧に入れて、私たちの食にある光と陰の「光」に焦点を当てながら、問題事象としての「陰」＝「大量消費・大量廃棄」の問題を題材とした。小学校5年生では、世界とのつながりを学んでおり、そこで学んだ知識・理解を活かし、さらに発展的に深めることが可能な題材である。

### 3. 児童の実態について

小学校高学年の児童の食習慣や食生活は二極化され、固定化されている。例えば、朝食の欠食率の高い児童や好き嫌いの多い児童は生活改善の難しさを抱えている。しかしながら、「好き嫌いが言える」「朝食を欠食しても、昼食や夕食が食べられる」ということも、我が国が達成してきた豊かさでもある。「この豊かさを、どのように捉えるか？」は、非常に重要な課題であり、二極化と固定化の決まりつつあるこの時期に、改めてその問題を考えることには十分意義があると考えられる。

### 4. 指導上の工夫

世界とのつながりは子どもの生活からはなかなか理解されにくい題材でもある。そこで、「普段の生活における食生活」から入り、「残食」を入り口として世界とのつながりを考えたい。また、アフリカの子どもの「好きな食べ物」のインタビューを通して、「食事のありがたさ」を体感できる内容として工夫をした。授業のまとめでは、「残食を減らす」「大切に食べる」という表層的な感想ではなく、一人ひとりの生活の中にあるよさを引き出し、自分にできることを少しずつ増やしていくための実践的な知識へとつなげるように指導したい。

### 5. 準備物

パソコン、スクリーン、スピーカー、ワークシート

## 6. 授業の目標（下記より1ないし2）

(1) 食べ物を通じて、私たちの生活が世界とつながっていることを理解する。（知識・理解）

(2) よりよい食生活を積極的に身につける（意欲・関心・態度）

(3) 自らの食生活をふり返り、よりよく生きるための改善点を述べることができる。（思考力・判断力・表現力）

## 7. パワーポイント資料の流れ：解説と工夫の在り方

### (1) 導入：PP資料3～7頁

日々の食生活の在り方を想起させる。

\* 学級の給食の残食の様子などを写真でとって入れておくことより身近な教材となる。

\* 3頁のアンケートを事前にとり、図表にすると効果的。

### (2) 展開：8～19頁

1) 「輸入がとまったら」クイズ（8-9頁）

2) 11頁：エビフライを事例として、世界とのつながりをわかりやすく説明  
国産のエビフライを作ることの難しさ

3) 12-13頁：農林水産省の推計

\* 卵や肉は、飼料となる穀物の輸入がなくなることによる大きな原因がある。

4) 14-19頁：私たちの食べ物の輸入の相手国を幸せにできているか？

\* アメリゴ君のVTR解説

この調査では、アフリカのどのような料理が好きなのか、ということで聞いてみたが、電気、水道、ガスのない村では、料理名よりも、「食材名」が回答として返ってきた。食事が食べられるだけで幸せ、という社会状況では、「嫌いな食べ物」という概念がない。

### (3) まとめ：給食のすばらしさ

\* 「食べ物があふれている」というのは日本の「豊かさ」であり長所であるが、その長所の為に「食事が食べられる幸せ」が減っている。「長所をどのように活かし、短所をどのように改善するべきか？」問いかけたい。

## 8. 附記

この教材は、平成24年度学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)の助成を受けて行われた研究成果の一部です（課題番号：22531026）。この教材は平成22年から24年の3年間に小学校で試行した実践をもとに、児童の感想や授業効果の高かった部分を再構成して作成しています。各学校で、部分的にでも使用して頂けるものがあれば、と願っています。

## もしも輸入がとまったら？

～世界とのつながりから「食」を考えよう～

附記:

平成24年度科学研究費基盤研究(C)課題番号22531026 (代表:白松賢:愛媛大学教育学部)の助成を受けた研究成果の社会的還元

(再配布・インターネット掲載禁止)  
(授業での全使用・部分的使用は全く問題ありません)

1

## 今日の目的

(1)食べ物を通じて、私たちの生活が世界とつながっていることを理解する(知識・理解)。

(2)よりよい食生活を積極的に身につける(意欲・関心・態度)

(3)自らの食生活をふり返り、よりよく生きるための改善点を述べることができる(思考力・判断力・表現力)。

社会科の輸出と輸入にあわせて授業をするとより効果的です。

2

## 質問

(1)私は、食べ物をほとんど残さない。

はい・いいえ

(2)私は、好き嫌いが多い方である。

はい・いいえ

(3)私は、「いただきます」「ごちそうさま」を、感謝の気持ちをこめて、言っている。

はい・いいえ

3

## \* イメージ写真

学級の給食(残食)の様子を、各クラスで撮影したものをに入れて下さい。

4

## これは何をしているところかな？

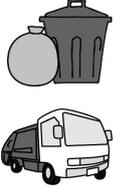


5



1日に捨てられている給食が集まると多いね 6

日本では1年でどれくらい食べ物が捨てられているのだろう？



日本はたくさん食べて、たくさん捨てている国のようです。

7

クイズ

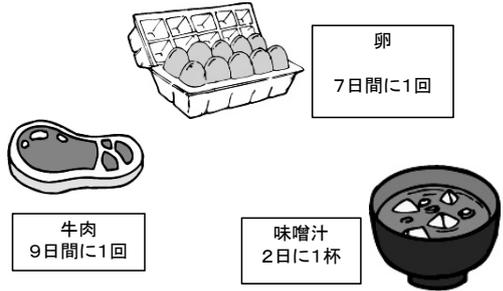
もし、飛行機や船が来なくなったり、日本に食べ物を送ってくれなくなったら、私たちは次のものを1週間のうち、どれだけ食べられるでしょうか？



牛肉      卵      味噌汁

8

答え



卵  
7日間に1回

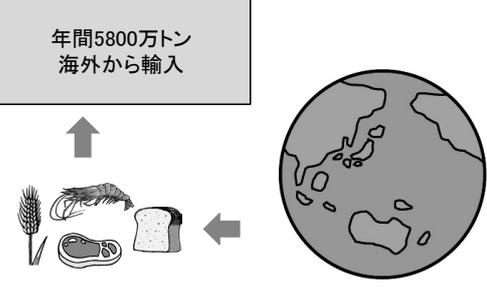
牛肉  
9日間に1回

味噌汁  
2日に1杯

9

日本の食は世界の人に助けられている

年間5800万トン  
海外から輸入



10

例えば、エビフライ

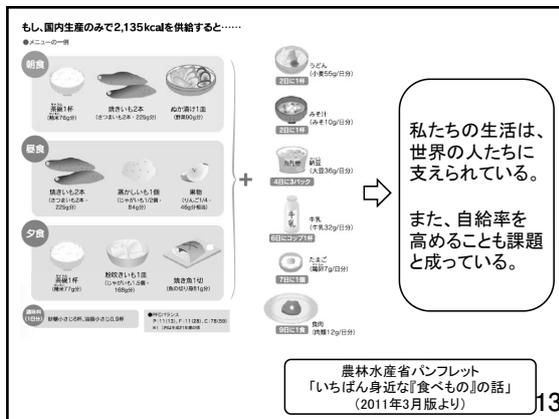


品目	食糧自給率	1位	2位	3位
エビ	5%	ベトナム	インドネシア	インド
小麦(エビのころも)	14%	アメリカ	カナダ	オーストラリア
大豆(油の原料)	5%	アメリカ	ブラジル	カナダ

11

もし、輸入がストップしたら？

12



13

## ところが

日本は、年間5800万トンを入力しているのに、年間2200万トン(22兆円)捨てている。

輸入をしている相手の国には、生活がたいへんな国もある。

14

## 満身に食べるのできない世界の子供たち



15

## 例えば、モザンビークという国のある村では



子供たちは、1日1.5食しか食べられない。  
(2010年12月調査時)



- 基本的には夕食だけ(1食)
- 昼、学校から帰ってきた時、あるいは農作業のお手伝いの前等に、左のシマーというとうもろこしの粉を水でねったものを食べる。(0.5食)
- 朝は、紅茶に砂糖を入れて、糖分をとる。

16

## アメリゴ君の好きなものは？

VTR

17

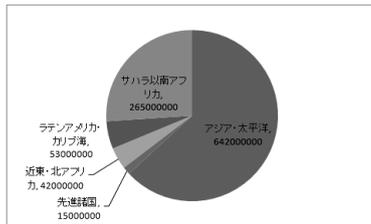
## アメリゴ君にとって

- 食べられるものは全て大切に大好きな食べ物。
- 電気も、ガスも、水道もない村では、日本のお家のように、料理をすることも難しい。
- みんなで食べ物を分け合い、助け合って生きる美しさがある。

18

世界には、ご飯を満足に食べることができない人たちがたくさんいるよ。

栄養不足人口(2009)  
合計10億1千7百万人



資料:FAO(国際連合食糧農業機関)による推計値

19

## 給食のすばらしさ



- (1)毎日、学校のある日に食べることができる。
- (2)クラスのみんなで、楽しく食べることができる。
- (3)栄養(えいよう)のバランスを考えてつくられている。

→これだけの給食を、全国の小学校で、全ての子どもたちが食べることができるのは、日本だけ、とされているんだよ。

20

## 今日学んだことから

- 自分の食事で、よいところは何だろう？
- もっとよくするには、どうしたらいいだろう？

21